

令和3年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会次第

日 時：令和3年7月2日（金）

午後7時～8時30分

会 場：上越市教育プラザ 大会議室

1 開 会

2 挨拶

3 委員紹介

4 議 事

(1) 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会について

(2) 専門部会における令和2年度の実施内容と令和3年度の実施方針案について

①入退院時連携推進部会

②対人援助スキルアップ部会

③急変時対応部会

④市民啓発部会

5 その他

6 閉 会

令和3年7月2日（金）

資料 1

(1) 上越市・妙高市
在宅医療・介護連携推進協議会について

上越地域における これまでの在宅医療・介護連携の取り組み

平成29年度～

上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会の設置

■ 協議会の目的

地域における保健、医療、介護及び福祉に関する関係者相互間の在宅医療及び介護に対する理解を深めるとともに、連携を円滑にして、地域に住む人々への支援を行ううえでの課題を解決するため、在宅医療・介護連携推進協議会を開催する

■ 両市合同で協議会を設置し、3年任期で各職能団体や関係機関に委員を委嘱

■ 地域支援事業に位置付けられた事業項目や上越地域の課題をもとに、4つの部会で活動を開始

- ① 入退院時支援部会
- ② 多職種連携推進・研修部会
- ③ ICT連携部会
- ④ 市民啓発部会

■ 上越地域在宅医療推進センターがH29年4月に設置され、専門職支援やMCネット普及啓発、多職種のつなぎ役として機能。協議会事業と常に二人三脚で実施。

平成29年度から令和元年度の協議会体制

上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

委員：職能団体の代表
役割：事業全体の協議

実務担当者合同会議

委員：職能団体実務者
役割：具体的な事業の協議

入退院時支援
部会

- スムーズな入退院支援
- ガイドラインの活用

多職種連携推
進・研修部会

- 相互理解の促進
- 連携ツールの活用や
仕組みづくり

I C T連携
部会

- M C ネットの活用による
連携強化
- 情報発信の一元化

普及啓発部会

- 市民に対する普及啓発
の実践

平成29年度から令和元年度 of 取組から見えてきた課題

入退院支援や連携のためのツールやルールはあるが、周知や活用が不十分。専門職の連携のためのスキルアップの継続が必要

本人や家族の価値観や思いを十分把握しているとはいえない状況。看取り期まで多職種で寄り添い続ける専門職の意識付けや知識の普及が必要

本人、家族、専門職（ケアマネ・訪看・ヘルパー等）が急変時における対応の共有ができていない。

市民が医療や介護が必要になった時に大切にしたいことについて、日常で考える機会が少ない。

入退院時連携
推進部会

対人援助スキル
アップ部会

急変時対応部会

市民啓発部会



各職能団体、地域包括支援センター、行政等との連動した活動

令和2年度～4年度までの目指す姿

住み慣れた地域で暮らし続けることができる上越地域を目指す

令和2年度から4年度の協議会体制

上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

委員：職能団体の代表
役割：取組方針の協議

部会長・副部会長会議

委員：各部会の部会長及び副部会長
役割：各部会の進捗確認、情報共有、横連携

入退院時連携
推進部会

●円滑な入退院支援を行うための後方支援

対人援助スキル
アップ部会

●本人の望む生活を支える専門職としての意識を向上

急変時対応部会

●急変時の対応の実態把握や予防的な手立ての共有

市民啓発部会

●医療や介護が必要になった時について、自分事として考えるための啓発

(2) 専門部会における令和2年度の実施内容と
令和3年度の実施方針案について

入退院時連携推進部会(R2年度)

○地域包括支援センターが主催する介護支援専門員研修会への協力（R3.3.16）

- ・研修会テーマ「地域連携を深めるための地域連携連絡票活用術」
- ・出席者…高田地区介護支援専門員、市内医療機関の医療連携室及び病棟勤務の看護師等

○参加者の感想

【介護支援専門員から】

- ・地域連携連絡票の「目的」や「思い」を知ることができた。
- ・医療側が注目している・欲しい情報を知ることができ参考になった。
- ・今まで、連携票に記入することを意識し、届けることが遅くなっていたが、まず早く繋がるのが重要だと気づいた。
- ・連携票が病院でどのように利用されているのか理解できた。

【医療側から】

- ・地域連携連絡票の目的が分かって良かった。
- ・本人がどんな生活を望んでいるのか、家族の思いや介護力などの状況はどうなのか等、記載してあるとありがたい！
- ・ケアマネジャーから早期に連携票がもらえると、退院支援計画の作成に反映できる。
- ・病院内の活用を改めて検討したい。

今後も医療と介護の相互理解が必要！連携票などのツールを活用しよう。

【令和3年度の方針】 コロナ禍でもスムーズな入退院支援ができるように多職種を交えた医療・介護連携の研修会を開催する。

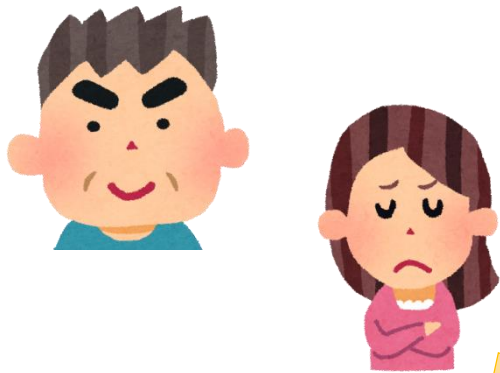
対人援助スキルアップ部会(R2年度)

私たち専門職は…

- ▶日々の支援で「陥りがちなくせ」「苦手意識」がある
- ▶信頼関係の構築が大切だとわかっている、そこに時間をかけるより「専門職として〇〇を提案する」ことを重視しがち
- ▶本人に「こだわり」があるために、本人と支援者の考えが一致しないと「困難だ」と思ってしまう

《事例検討の場面より》

本人:イライラする復職
もしなくていい

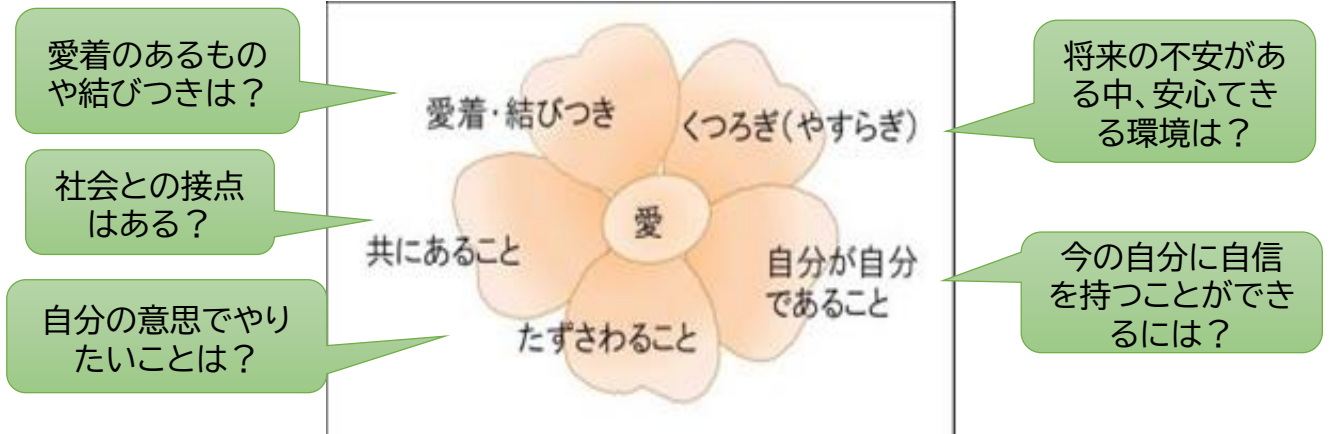


担当者:なんでイライラするの?
お金稼がなくてもいいの?

《部会での学び》

- ★人間として尊重する、本人の考えや行動を全面的に受け止める
 - ➡「自分」の気持ちを「支援者」が理解してくれると思ってもらえることができるか
- ★本人の苦しみを知っているか
- ★本人の「支え」を知っているか
- ★提案に引っ張られ過ぎず「謙虚な問いかけ」を行い、信頼関係を構築していく

パーソンセンタードケア提唱者トム・キッドウッドによる
認知症をもつ人の心理的ニーズ



【令和3年度の方針】 部会外の専門職との共有→事例検討を通じた研修の開催

急変時対応部会(R2年度)

【取組内容】

- 「高齢者の急変時における対応の実態調査」を実施(R2. 12. 25)
- 対象及び回答率：介護保険事業所等 58.4%(278/476件)、医療機関 38.7%(41/106件)、消防署 100%(8/8件)

【地域の実態・声】

○介護保険事業所等

- ・急変時や救急搬送の時に本人、家族の意向が分からず(一致していなくて)困った。

○医療機関

- ・家族の連絡先や担当ケアマネジャーなどの情報がなく、連絡がつけられなくて困った。
- ・本人の意向が分からず、思いを叶えてあげられないことがあった。

○消防署(救急隊)

- ・救急医療情報キットが活用・更新されていなかった。
- ・連絡先が分からず困った。

【令和3年度の方針】

- 実態調査結果の分析を進め、上越地域が抱える急変時の対応に関する課題を整理し、部会として取組むことを検討する。
- 本人や家族の意思表示及び意向の確認に関する課題については、市民啓発部会や対人援助スキルアップ部会とも共有し、連動した取組を行う。

市民啓発部会(R2年度)

目指す姿:住み慣れた地域で暮し続けることができる

対人援助
スキルアップ
部会

人づくり
(支援者)

当事者
主人公づくり

仕組みづくり

・急変時対応部会
・入退院時連携
推進部会

市民啓発部会

<部会の目標>

市民が思っていることや大切にしたいことを
考え、言語化し、家族や専門職と共有できる



- ①考える
- ②言語化する
- ③家族と共有する
- ④専門職と共有する

考えるきっかけは？

高齢になれば考える人が増える
具合が悪くなってから考えるのでは遅いよね
終末期に病院で苦悩している姿ってあるよね
親の介護を通じて、自分を振り返ることが多いのでは？

- ① : 普段から考えることは少ない。
- ②③ : 考えてないので話が出ない。
- ④ : ①～③をすることでできる。

若い時から考えてもらうことが大事！

【令和3年度の方針】

40歳～60歳の世代に、介護やACPを題材にPR漫画などを活用し興味を引く媒体を考えよう！

部会長・副部会長会議(R2年度)

令和3年2月19日(金)オンライン

コロナで始まった令和2年度（大雪もあり、大変な中）・・・
オンライン会議に挑戦し、様々な工夫と智恵で進めてきた部会の活動を振り返り、労いながら、令和3年度に向けた取組内容について意見交換を行いました。

参加者：部会長・副部会長 8人、在宅医療推進センター 3人、事務局 9人

○会議の内容：各部会の取組報告と令和3年度の取組方針、部会同士の連動した取組の
必要性を共有
在宅医療推進センター長より「在宅医療・介護連携推進事業の進め方」



部会長・副部会長会議での気づき・・・

○改めて、委員同士で現状や課題、取組等を再確認し、共有する必要があるのではないか。

- ・ 目標と現状、取組にギャップはないか。
- ・ 部会の取組の目的は、課題は。みんなで共有できているか。
- ・ 今の状況を踏まえ、何を行っていくか。

○互いの立場を理解し、協力し合うことが大切。

- ・ 専門部会そのものが、多職種協働のプロセス。

令和3年度の部会運営にむけて 今後の進め方

現状を踏まえ、一歩進めるしかけづくり

(1) 目的・現状・課題・取組等を整理し、みんなで共有

<部会での検討項目(案)>

- ① 部会の取組の目的は
- ② 現状は。解決すべき課題は
- ③ そのためにはどんな取組が必要か
- ④ 目指すこと、成果は何か

(2) 多職種協働のプロセスを通して、専門職それぞれの役割を再認識

<部会での検討項目(案)>

- ① 委員が所属・職域での課題は何か
- ② 課題解決のために、専門職それぞれにおいてどのような取組が必要か
- ③ 専門職それぞれにおいて何ができるのか



モチベーションをあげて一歩前へ！

(2) 専門部会における令和2年度の実績と令和3年度の実績方針(案)

	3年間の取組方針 (Plan)	実績 (Do)	評価 (Check)	令和3年度の実績方針案 (Act)	目指す体制
入退院時連携推進部会	<ul style="list-style-type: none"> ○既存の連携ツールの活用状況の把握や活用における課題を整理する ○既存の連携ツールの活用を推進 ○地域と病院の相互理解や連携を深める仕掛けを重層的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年度に実施した連携ツールのアンケート結果を共有 ○地域連携連絡票の活用状況等について意見交換 ○地域連携連絡票の活用推進を目的とした研修会への協力(地域包括支援センター開催 R3年3月16日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修会を通して、高田エリアのケアマネジャーや病院の看護職が共通ツールの重要性について理解を深めた。 ○引き続き、医療・介護連携の必要性や連携ツールである地域連携連絡票等について周知が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍においても、スムーズな入退院支援ができるよう、多職種を交えた医療・介護連携に関する研修会の開催をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ケアマネジャーや病院がガイドライン・フロー図を理解し、円滑な入退院の支援が実践できる
対人援助スキルアップ部会	<ul style="list-style-type: none"> ○その人らしい生活を支えるために専門職として求められていること(基本理念)について意識を統一する ○研修会の企画・実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○事例検討を通して、部会メンバーの対人援助についての日頃の困り感や大切にしたい支援者の考え方・関わり方を共有 ○エンドオブライフ・ケア基礎研修 in 上越プレ大会に任意で部会委員が参加 (R2年10月3日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○事例検討を通して、大切にしたいことを確認し、部会員の意識の統一を図ることができた。 ○部会委員だけでなく、専門職全体に広げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事例検討を通じた研修の実施(パーソン・センタード・ケアの理解を深める) ※集合形式による研修会は困難な状況であるため、オンライン研修など工夫しながら開催を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本人の望む生活を支える医療・ケアが提供され、本人・家族・専門職がともに結果に満足できる
急変時対応部会	<ul style="list-style-type: none"> ○急変時の対応について、上越地域の実態を確認する ○予防的な手立てを確立する(急変前の予防策、市民への啓発) ○関係者との効率的な情報共有 ○急変時の家族対応の共有 ○救急医療情報キットの普及のための課題検討、啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○上越地域における急変時の対応の実態を確認するため、介護保険事業所等、医療機関、消防署(救急隊)を対象に「高齢者の急変時における対応の実態調査」を実施。 ○調査結果を部会で共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○上越地域の急変時の実態を把握することができた。 ○調査結果を踏まえ、急変時の対応に関する課題整理や必要な取組について検討をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○上越地域が抱える急変時の対応に関する課題を整理し、部会として取り組むことを検討する。 ○本人や家族の意思表示及び意向確認に関する課題については、市民啓発部会や対人援助スキルアップ部会と共有し、連動した取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本人・家族・専門職が急変時の対応の共有ができ、心構えを持つことができる
市民啓発部会	<ul style="list-style-type: none"> ○啓発用スライドの活用の促進 ○今後の人生設計をする上で「必要な情報」や「まわりに伝えておく必要があること」が分かる啓発媒体を作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ○啓発の対象・内容についての検討 ・対象は「40～60歳代」 ・漫画等(啓発媒体)を作成し配布(配布方法は今後検討) ・親の介護やACPを切り口とし、自分自身の今後の人生について考えることができるようなものを想定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○啓発の対象・内容について絞りこむことができた。 ○内容(ストーリー)や啓発媒体の配布方法等を検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○若い世代に親の介護やACP、自分自身の人生設計について考えてもらうストーリー性のある媒体を作成し、配布方法や啓発方法を検討する。可能であれば試験的運用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民が我が事として思っていることや大切にしたいことを考え、言語化し、家族や専門職と共有できる

◎上越地域の在宅医療・介護連携のビジョン「住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域を目指す」